

2004 年度夏学期 経営政策科学試験問題

清水剛教官

2004 年 7 月 27 日

60 分

試験時間は 60 分（90 分ではないので注意すること）。

持ち込み不可。

解答用紙は 1 枚。

- 以下の (A),(B),(C) の内、2 つは間違いであり、1 つだけが正しい。この (A),(B),(C) についてそれぞれ正しければ を、間違っていれば × をつけた上で、× をつけたものについて間違っている箇所を全て指摘し、なぜ間違っているのかを説明しなさい（30 点）。
 - 企業と企業との関係のあり方として、取引、提携、合併・事業統合の相違を考えると、取引は企業と企業とが独立している度合いが最も高く、逆に合併・事業統合は最も低い。このため、取引は企業の自律性を保つことができるのに対し、合併や事業統合は企業間の結びつきを強めることができる。一方、合併・事業統合と合併との相違は一事業だけの関係構築か全社的な関係構築かという違いであり、結果として形成される組織の複雑さやコストなどが異なってくる。
 - ある自動車メーカーとの間の関係でのみ有益な資産である関係特殊資産が存在しているため、サプライヤーは基本的に 1 つの自動車メーカーとのみ取引をする。このような関係の絞り込みにより濃密なコミュニケーションが発生し、生産の効率化が行われるが、このようなコミュニケーションにより、サプライヤーのコスト削減の成果は自動車メーカーに全て分かってしまうため、部品メーカーは値下げという形でその全てを自動車メーカーに移転せざるを得ない。
 - 企業合併は合併を行う企業の株価に最終的に正の影響を与えることが知られているが、なぜこのような効果が発生するのかは理論的には明らかにされていない。この点に関して、合併が企業の寿命を延ばすかどうかという視点から分析を行ってみると、確かに合併により企業の寿命が延びていることが分かる。これは、合併という強い結びつきにより、合併後に二つの企業が統合しなくても自動的に合併成果が得られることを示唆している。
- 以下の (A),(B),(C) の内、2 つは間違いであり、1 つだけが正しい。この (A),(B),(C) についてそれぞれ正しければ を、間違っていれば × をつけた上で、× をつけたものについて間違っている箇所を全て指摘し、なぜ間違っているのかを説明しなさい（30 点）。
 - ネットワーク外部性とは、ある財 A を持っている人がこれとは異なる財 B を得たときに、それに

よって財 A から得られる満足（効用）が増大するという性質を言う。このため、ネットワーク外部性が働く製品を供給する企業にとっては、いかにして財 B に当たる商品（補完財）をスムーズに供給させるかが大きな問題となる。このために、財 B の供給に他企業を参入させず、自らが計画的に供給する方法がほとんどの企業によって取られることになる。

- (B) 経済学の完全競争モデルでは、全ての生産者がそれぞれの生産する財についてよく知っているために、生産者が財に自由に価格を付けることによって社会全体としてみれば余剰の最大化がなされる。しかし、このようなモデルでは企業の競争条件そのものが変化していく過程や企業間の経営資源の相違等の影響が分からない。そこでハイエク等のオーストリア学派によって提唱されたのが「対話としての競争」という概念である。
- (C) アーキテクチャは基本的にインテグラル・アーキテクチャとモジュラー・アーキテクチャに分けられる。インテグラル・アーキテクチャは製品毎に機能分化しておらず、インターフェースも通常標準化されていないものを指す。自動車は一般にはインテグラル・アーキテクチャとされるが、実際にはモジュラー・アーキテクチャの部分も混じっていると考えられる。このように、アーキテクチャの分類はしばしば難しい問題を含む。

3. 以下の言葉について、その定義を示した上で、簡単な例を挙げて企業経営において持つ意味を説明しなさい（15 点 × 2）。

- (1) グローバル戦略
- (2) ユーザー・イノベーション

4. 授業の中で自分が興味を持ったトピックを一つ挙げ、なぜ興味を持ったかを簡単に述べなさい（10 点）。

なお、時間があれば余白に授業の感想などを書いてください。